

令和5年度卒業式・修了式「お祝いの言葉」について

報告内容

令和5年度の区立小・中学校、幼稚園における卒業式及び修了式の「お祝いの言葉」について報告します。

報告事項（別紙のとおり）

- 1 令和5年度 幼稚園修了式「お祝いの言葉」
- 2 令和5年度 小学校卒業式「お祝いの言葉」
- 3 令和5年度 中学校卒業式「お祝いの言葉」

令和五年度 幼稚園修了式 お祝いの言葉

〇〇組の皆さん、幼稚園修了、おめでとうございます。

先ほど、園長先生から、名前を呼ばれて、修了証書を受け取られた皆さん一人ひとりの姿はとても立派でした。園長先生のお話を聞くときも、姿勢よくしっかりと聞くことができました。今までの幼稚園での生活を通して、皆さんがお兄さんお姉さんに成長したことが伝わってきます。

皆さん、〇〇幼稚園で楽しい思い出がたくさんできましたか。

皆さんは、毎朝、おうちの人と手をつなぎ、「おはようございます。」と元気にあいさつをして幼稚園に通いました。そして、おうちの方が用意してくれたお弁当もおいしかったですね。おうちの人に「ありがとう。」という気持ちを忘れないでくださいね。

入園してからの幼稚園生活では、片付けや当番の仕事など、自分のことは自分でできるようになり、なわとびやこま回しなど、少し難しいことにも繰り返し挑戦しました。

友達と協力して取り組んだ劇や合奏、力いっぱい走った運動会など、心に残る思い出がたくさんできましたね。

これまでみなさんが、がんばってきた姿は、年下のお友達の良いお手本になりました。

四月から皆さんは、小学校一年生です。港区の小学校では、国語や算数のほか、英語の勉強も始まります。お昼には、おいしい給食を食べます。わくわくドキドキするような楽しいことが皆さんを待っています。そして、小学校には、たくさん新しいお友達がいいます。お友達とたくさん遊び、たくさん勉強して、立派な一年生になってください。

さて、保護者の皆様、本日はお子様の幼稚園修了、おめでとうございます。これまで愛情を注いで、育ててこられたお子様の晴れの姿に、胸を熱くされたことと思います。

子どもたちの心豊かで健やかな成長は、ご家庭の愛情はもちろんのこと、PTA並びに地域の皆様、本日御臨席いただきました皆様の温かいご理解とご支援、ご協力のたまものです。心から御礼申し上げます。

結びに、〇〇園長先生をはじめ教職員の方々には感謝を申し上げますとともに、本日、晴れて幼稚園を修了した園児の皆さんの健やかな成長を祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

令和六年三月十五日

港区長 武井 雅昭
港区教育委員会

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日、小学校の全課程を修了され、晴れて卒業の日を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。大きく成長されたお子様の姿をご覧になり、喜びもひとしおのことと思います。

ただいま、皆さんは、校長先生から卒業証書を受け取りました。皆さんの清々しい表情は卒業の日を迎えた喜びと、中学校生活への期待に満ちあふれており、その姿は頼もしいかぎりです。

皆さんは、およそ三年にわたり、新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休業や分散登校、新しい生活様式での学校生活など、前例のない困難を乗り越え、小学校卒業という節目の日を迎えられました。

ここで、新たな生活に向かって羽ばたく卒業生の皆さんに、港区並びに港区教育委員会からお祝いの言葉を贈ります。

令和五年三月、国際的な野球大会であるワールドベースボールクラシック、いわゆるWBCが開催されました。この大会で日本代表が、監督や選手の深い信頼関係を築き上げ、優勝したことを覚えている人も多いのではないのでしょうか。

日本代表が逆転勝利を収めた準決勝のメキシコ戦で活躍した村上宗隆選手は、日本を代表する打者の一人です。しかし、大会期間中は、本調子ではありませんでした。村上選手は、自信を失い、「他の選手が出場した方が、チームの勝利につながるのではないか」と考えていました。しかし、監督を務めた栗山英樹さんは、仲間に声を掛けながら全力でプレーをする村上選手を信じ、最終回のチャンスでも、「思い切って行ってこい。」と、声を掛けたそうです。村上選手は、監督の言葉に心を打たれ、「信頼に応えよう」と思いながら打席に立ち、見事に結果を残しました。栗山監督の選手を信じ続ける気持ち、それに応えようとした村上選手の気持ち、日本代表を勝利に導いたのです。

このように、栗山監督は、選手との信頼関係を大切にしました。そして、信頼関係を築くために、栗山監督が心掛けたことは、自分の思いを率直に伝えることでした。栗山監督は、大会開催前、思いを記した直筆の手紙を選手全員に送っています。手紙を受け取った選手は、「自分のことを思い、信頼の気持ちを伝えてくれた栗山監督の姿勢に応えるために、全力でプレーする」と決意したそうです。

仲間を信じること、自分の思いを率直に伝えていくことによって、深い信頼関係が生まれること、そしてその信頼関係が、決して一人では成し得ない大きな成果へとつながっていくことをWBC日本代表は教えてくれました。様々な授業や行事において、仲間を信じることの大切さや、自分の思いを相手に伝える大切さを学んできました。その学びを糧にしなが、WBC日本代表のように、関わる人々と信頼し合い、国際社会において、活躍することを願っています。そして、希望に満ちた広く大きな世界へと進んでください。

結びに、卒業生を今日まで愛情をもってご指導いただきました〇〇校長先生をはじめ教職員の方々と、本校の教育活動に惜しみないご協力とご理解を賜りましたPTA並びに地域の皆様から心より感謝を申し上げますとともに、〇〇名の卒業生の健やかな成長と充実した中学校生活が送れることを心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。

令和六年三月二十二日

◎内容 ・ 仲間を信じる

◎題材 “ 信じる力 ”
・ 人々と良好な関係を築く

本文
1,353 字

【参考】
R4:1,785 字
R3:1,842 字

港区長 武井雅昭
港区教育委員会

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日ここに義務教育九年間の全課程を修了され、晴れて卒業のときを迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、喜びもひとしおのことと思います。

卒業生の皆さんは、校長先生から中学校三年間の課程を修了した証である卒業証書を受け取りました。皆さんの清々(すがすが)しい表情は卒業の日を迎えた喜びと、これからの人生に対する大きな期待に満ちあふれており、その堂々とした姿は頼もしいかぎりです。

ここで、新たな進路に向かって羽ばたく卒業生の皆さんに、港区並びに港区教育委員会から、お祝いの言葉を贈ります。

今年度、パリオリンピック出場権を獲得したバレーボール男子日本代表は、『Catch our dream』というスローガンを掲げ、十六年ぶりにオリンピック出場という夢を掴みました。しかし、日本代表が夢を掴むまでの道のりは、決して簡単なものではありませんでした。

日本代表は、一九七二年のオリンピック以降、海外の強豪国との差を縮めることが難しい時期が続きました。高さが重要となるバレーボールにおいて、平均身長では海外チームと差がある中で、強豪国が次々と考案する様々な戦い方を前に、打開策を見い出せない状況が続いたのです。

そこで、日本代表を率いるフィリップ・ブラン監督が、チーム一丸となって取り組んだことが、「長所を磨くこと」と「コミュニケーションを図ること」でした。

日本代表の長所は、チームのメンバーが互いに連携する力です。そこで、監督は、「攻守の切り替え」や「粘り強い守備」を戦い方の中心とすることで、連携力を生かした日本なりの戦い方ができるようにしたのです。さらに、他国との練習試合を重ね、自分たちの戦い方を統計的に振り返り、選手一人ひとりの役割を明確にすることで、長所をより一層磨き上げました。試合前のインタビューでは、キャプテンが「今の日本は、誰が出ても強い。出た選手がそれぞれの役割を理解できている。」と述べるほど、チームの全員が役割を理解して連携することで、日本代表は成長しました。

そして、この日本代表の成長を支えたのが、「コミュニケーション」でした。監督は、何よりも選手との対話を大切にしました。例えば、監督が示した戦い方に対して、選手が自分の考えを伝える時間を設定し、互いが納得いくまで話し合ってきました。それまで自分の考えを伝えることに苦手意識のあった選手も、監督が積極的な働きかけを行うことで、少しずつ戦い方について具体的な話し合いができるようになっていきました。こうした姿勢は選手にも根付き、劣勢の場面でも選手同士でポジションや役割を確認し、より円滑なコミュニケーションがとれるようになったのです。

卒業生の皆さんも、これまでの中学校生活三年間、多くの場面において、自らの長所を磨き、仲間とコミュニケーションを取り合って学校生活を充実させてきたことと思います。学校行事や部活動では、なかなか思い通りにいかないときもあったことでしょう。しかし、目標に向けて日々仲間と一緒に頑張って切磋琢磨しながら、困難を克服するために、皆で一致団結してきたことと思います。皆さんは、四月からそれぞれの道に進みます。ときには、困難な状況と向き合うことがあるかもしれませんが、そのような中でも一つ一つの課題を解決していくことで、日本代表が取り組んできたように「長所を磨くこと」と「コミュニケーションを図ること」を大切にしてください。そして、皆さんが将来、自らの夢を掴みとり、国際社会において活躍することを心より願っています。

結びに、〇〇校長先生をはじめ教職員の方々と、本校の教育活動に惜しみないご協力とご理解を賜りましたPTA並びに地域の皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、〇〇名の卒業生の皆さんの健やかな成長と今後とも充実した生活が送れることを心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。

令和六年三月十九日

◎内容 ・自らの長所を磨く

◎題材 “Catch our dream”
・人とのコミュニケーションを大切に

本文
1,641字

【参考】
R4:1,917字
R3:1,761字

港区長 武井雅昭
港区教育委員会